

シラバス

セミナー名称：「理系思考でつくる新ファイナンス論」セミナー
クラス名称：「フィンテックと法・制度のデザイン」クラス
クラス番号：TNF-2022-1（仮）

概要

- 期間：2022年5月（具体的な日程については下記の詳細をご覧ください）
- 曜日：金曜日
- 時間：18:30-20:40（2時間10分（途中10分程度の休憩あり））
- 実施形態：オンライン（Zoom）による実施（パソコン、アプリ、AV機材（マイク、スピーカ、Webカメラ等）、ネットワーク環境等のご自身でご準備下さい。）
- 対象：フィンテック、および、フィンテックに関わる法と制度のデザインの実務者担当者、あるいは、これらに興味を持つ一般社会人、など
- 講師：三輪純平（株式会社リクルート [元金融庁フィンテック室長]）、猪原健弘（東京工業大学）

詳細

- 日程：全3セッション：2022年5月13日（金）、20日（金）、27日（金）
- 内容：

講師はバリバリの文系出身です。講義名に安直に「理系思考」という言葉を使ってすいません。

私は、20年以上金融の世界に身を置き、金融当局に16年超在籍しました。金融のグローバル化の中で、主にバーゼル規制をはじめとする金融機関に対する規制のフレームワークを作る側に身を置き、その間、100年に一度の金融危機も経験し、その後の国際的な金融規制改革の大作業にも携わりました。

その作業が概ね完成した2017年頃からフィンテックに携わり、金融庁の中で新しくできたフィンテック室の初代室長などを経て、現在はリクルートに在籍しています。

「フィンテック」は、テクノロジーによって、金融サービスの在り方が変わる中で、新たなプレイヤーが金融に参入し、金融規制当局として、これまでと違うディメンションにあります。もはや、規制当局が相手にするのは、金融機関だけではなく、多様なバックボーンを持った様々なステークホルダーであるということです。

ブロックチェーンのように自律分散型の技術が、金融システムの中に組み込まれていく中で、金融システムそのものが自律分散型へ移行していく将来像について、2017年くらいから考え始めました。その過程で、金融機関などの既存のステークホルダー以外の、暗号学・情報セキュリティ分野の大学の先生や研究者、暗号資産のディベロッパーなどとの対話・議論の必要性を感じ、金融庁においてそれを実現してきました。金融は多様性を包摂した産業に変わったのです。

「理系思考」に込められた意味は、単なるファイナンスとテクノロジーの融合という観点での「理系思考」ということにとどまりません。これからの金融（ファイナンス）は、多くのステークホルダーが関与し、金融の法・規制の在り方、これからの金融システムのデザイン設計においても「理系思考」も総動員することで新しい発想をつくっていく必要があります。皆さんで新しい金融の在り方について考えていきましょう。

- 各セッションの概要：

5月13日（金）：講師：三輪純平、猪原健弘
フィンテックと金融行政、金融規制の役割、など

5月20日（金）：講師：三輪純平、猪原健弘
BigTechなど新たなプレイヤー金融システムへの参入、自律分散型の金融システム、など

5月27日（金）：講師：三輪純平、猪原健弘
金融当局の技術中立性の是非、技術（テック）での課題解決の可能性、まとめ